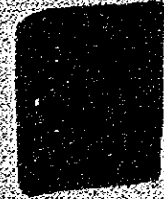


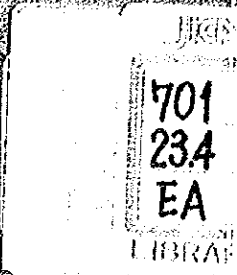
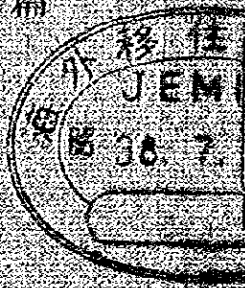
移住案内

カルフアペー篇

法人団 日本海外協会連合会



Handwritten 'D-24' in a rectangular box with horizontal lines below it.



国際協力事業団

受入 月日	'84. 8. 31	701
		23.4
登録No.	09518	EA



ミクラーキキ茶では紅茶の生産が中心。この写真は紅茶採茶に訪れる茶の工場の一コマである。(左佐藤三郎氏提供)

JICA LIBRARY



1022136[4]

目次

- 一、先ずアルゼンチン全般について……………(一)
- 二、次にミシオーネス州について……………(二)
- 三、それではガルアペー移住地について……………(三)
- 四、営農のすすめ方について……………(四)
- 五、どんな人が移住できるか……………(五)
- 六、移住者に対する援助……………(六)
- 七、申込から出帆まで……………(七)

現地からの報告……………(九)

付表「移住者の携行物資に対する調査表」、「アルゼンチン國物価表」

先ずアルゼンチン全般について

アルゼンチンと云えば私達日本人にはなんとなく親しみを覚える国です。リタングの国アルゼンチンから南米のパリト、ブエノスアイレスなどという言葉は皆さんもきつとどこかで耳にされたことと思います。わが国はこの国とは比較的昔から因縁があつて、明治時代、日露海戦に功績をたてた戦艦「日進」と「春日」がアルゼンチンから譲られたものであることは、少し古い人々なら御存知の方が多いのではないかと思います。

お国柄

ところで、このアルゼンチンとは一体どういう国なのでしょう。大体、南米というと何か熱帯で非常に暑いところのように思われがちですが、アルゼンチンの大部分は温帯に属しています。国土の面積は約二百八十万平方キロで日本の八倍ぐらゐあります。しかし、人口はわずか二千万人に過ぎません。従つて人口密度は七・五人、日本の人口密度二四五人にくらべたら三十分の一にしかあたりません。しかもその中の七〇〇万人以上がブエノスアイレスを

中心とする首都圏周辺に集まっているのですから、首都から少し離れたところではもう一面に未開発の沃野がえんえんと広がっているというわけです。

そこで、この国はまず世界有数の大牧畜国で、その家畜の数は人口の十数倍にもあたるといわれています。見渡す限りのパンパ（草原）に牛、馬、羊の大群が放牧されている雄大な景色をちよつと想像してみてください。

また、農業では小麦が第一で、この輸用量は世界の第二位を占めています。トウモロコシ、亚麻仁、綿花、ケブラッチ材、砂糖、煙草、柑橘類等の生産もさかんです。また、西部アンデス山脈の東斜面は南米のカリホルニアともいわれ、ブドウの栽培とブドウ酒の生産で有名です。アルゼンチンの人はブドウ酒をまるで水がわりのように飲むのですからその生産がさかになるのも不思議ではないかも知れません。それからまたこの国の南部ではリソゴとナシの栽培がさかんで、年々良質なものが増産されています。

鉱産物では石油、鉛、亜鉛、石炭等が多量に産出されます。

この国はまた非常に海岸線が長く漁業の資源は実に驚くべき豊富さでその

将来性は底知れないものがあります。日本からも二つの漁業会社が進出して活躍しているほどです。

このようにアルゼンチンは広大な土地と豊富な天然資源に恵まれているのですが、人的資源と経済力の不足とで今なお未開発のまま放任されている部分が多分あります。好適な気候は精神の緊張を和らげ、天恵豊かな環境は至極ナンビリしたアルゼンチン人をつくりあげてしまったのかも知れません。明日主義とでもいいますか、今日しなければならぬことでも明日に廻せばよいといった調子です。せまい島国に思つまるほど人間が多くいて働いても働いてもなかなか暮らしが楽にならない日本と比較すれば実に雲泥の差があると申せましょう。

そこで有無相通するの理で日本の進歩した科学工業力と勤勉な働き手とを進出せしめ得る可能性とその必要性が生じてきたわけです。

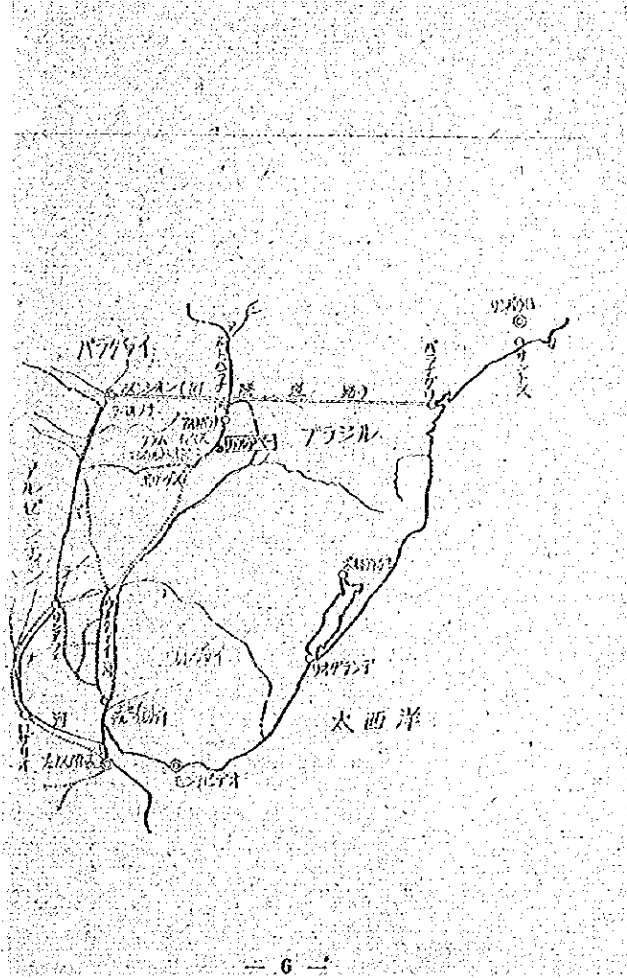
最近、アルゼンチンを訪問した日本人記者団がフロンティン大統領と会見した際にも、同大統領は

「両国の経済関係の拡張のために日本のような工業技術の進歩した国とアルゼンチンのもつ天然資源との協力を期待したい。とくに日本は製鉄、造船、水力発電、製紙業などの点で資本を定着させ協力できる状態にあると思う。一方、アルゼンチンには広大な面積があり数千、数万の人を受け入れることができると思う……………」。

日本人の家族にはもつともつと来てもらいたい。日本人についてはこの国ではよい経験をもっている。きわめて勤勉で正直であり、このような国民にはぜひもつと来てもらいたいと思つている。……………」と述べています。

このフロンティン大統領の積極的な考え方を裏書きするものとしてアルゼンチンでは今年に入つてから年間の移住者受入枠とか、家族構成などについて大巾な条件緩和を打ち出したり、従来は制約を受けていた首都近郊への移住を認めたりして日本の移住者を積極的に歓迎する態度を示しています。最近ではこのような好意を反映して、近い将来アルゼンチンとわが国との間に移住協定が締結されるのではないかという推測がなされています。

戦後、アルゼンチンへの移住は、昭和十九年から始まり、すでに約五百名の方々が移住して戦前からおられる約二万二千名の方々と一階に、いま元気に活躍しておられますが、この方々につづいてこれからはますますたくさんの優秀な日本人が移住して活躍されることが強く要望されているのです。



次にミシオーネス州について

アルゼンチンはいまから約四〇〇年前にスペイン人が植民して以来、急速な発展を遂げて来た国ですが、まだまだ未開拓の沃野がほとんど無尽蔵といつてもよいほど残されております。

ここに説明するミシオーネス州なども未開拓の沃野がたくさん残されているという点では代表的な州といえるでしょう。ところで、なぜここでミシオーネス州のことなど、ひっぱり出して来たかといえますと、この州の北東部、パラグアイ、ブラジルとの国境地帯に、ガルアペーという日本人の移住地があるからです。そこで、このガルアペー移住地の話をする前に少しミシオーネス州の話もしようというわけです。

自然条件

さて、さきほど申上げたようにミシオーネス州はアルゼンチンの北東部にあります。同国は地球上で丁度日本の真裏に当たり、北へ行く程暑くなり、南へ行く程寒くなります。地帯をこらんなればおわかりのようにブラジルとパラグアイの間には

さまれ、パラナ河とウルグアイ河に囲まれた小さい州です。小さいといつても面積は二万九千八百平方軒ですから、四国の一・五倍くらいはあります。ミシオーネス州の自然の状態はアルゼンチンというよりはブラジルによく似ており、パラナ州方面から続いている起伏の多い波状高原の延長地帯でパルナ材として極めて重要なパラナ松の産地でもあります。

同地方は亜熱帯に属し気温もかなり高く、土質はアルゼンチンとしては珍しい肥沃な赤土である上に、雨もブエノスの二倍程度降るので植物の生長は極めて旺盛で、うつそうとした原始林が残っています。

特産物

この州の特産はゼルバマテ樹の他、バナナ、パイナップル、マンゴーなど台湾やハワイでみられる亜熱帯の果樹が良くできるかと思つと、北海道や満州の特産物の大豆や小豆も良く栽培されています。また亜熱帯ではよく開花しないといわれている日本の桜も、この地ではよく生育もし、開花もするといふわけで、亜熱帯、温帯、亜寒帯の植物がこの州では仲良く混生しているというのが実情です。

ますと、一八九七年にポーランド人が州都ポサーグスの南方アポストレに入植したのが最初といわれ、その後はポーランド人につづいてドイツ人、スイス人、オーストリア人、オランダ人、白系ロシア人などの北欧系の移住者がぞくぞくと入植しています。

日本人もおくればせながらこれにつづいて入植ははじめました。現在ではミシオーネス州に在住する日本人の数は約百七十家族に達しています。この中、ガルアペー移住地に入植している家族のほか、独立経営者は百七十家族を超え、所有面積一万三千ヘクタール余、耕作面積四千ヘクタールに達する盛况を示しています。(ヘクタールは約二町歩)

ミシオーネスの日本人を語る場合忘れてならないのは先駆者故郷山(かえりやま)徳治氏です。氏は北海道の人、海外発展の意気に燃えて家族同伴で渡米したのは一九二〇年、そして渡米の第一志望であったミシオーネス入植を計画し、ポサーグス市より五〇軒離れたサンタ・アナに二十五町歩の原

始林を購入したのは一九二二年の十月です。今から丁度四〇年前のことです。

先駆者の當として、婦山徳治一家は豆、とうもろこし、マンシッカを主食とし、いろいろ苦勞し、楽になるまで一六年かかったということです。

婦山氏の先べんがきっかけとなつて、続いて郷里の北海道から入植するものが増え、次第に全国からも来るようになったのです。

婦山氏は後にオベラへ移りそこで紅茶で大成しました。今のオベラの町には入植記念塔があり世界各国移民で最初に入植した人の名が記されています。二十数カ国にも及ぶ各国の先駆者にまじつて日本人 TOKUJI・KAWABE の名もはつきりと刻まれているのです。

医療設備

さて、このように見るとこのガルアペーという移住地は全く申分のない移住地であると言えるのですが、昭和三十四年に第一陣が入植して以来、八十戸入植予定のところ未だに三十三戸しか入植していない実情にあります。それは何故なのでしょう。

近くに病院がないから？とんでもない。移住地の中にも立派な診療所がありますし、すぐ近くのフェルト・リコという町や、さきほどのポサーグスにはそれぞれを設備のぞとつた病院があり、その上、州の予算で無料で診療

	1956年度		
	雨量	気最低	温最高
1月	243.2	20	35
2月	80.6	13	34
3月	237.3	13	32
4月	204.2	0	30
5月	128.9	-1	25
6月	169.7	0	22
7月	93.5	-2	22
8月	29.1	-2	27
9月	90.4	4	30
10月	118.0	9	30
11月	38.7	14	32
12月	85.3	16	35
年	1,525.2	-2	35

教育機関

してくれます。その方の心配は全くありません。

「それでは子供の教育機関がないから？」とんでもない。これも移住地の中に木の香も新しい新築の小学校がありますし、それをゾエルト・リッポヤボサーダスには立派な中学校、高等学校、大学まで完備しています。特に、アルゼンチンには大きな貢献をしようという子供達には充分な教育をさずけることが出来ます。さあそれでは何故でしょうか。どこに原因があつたのでしょうか。

入植状況 と所要資金

この原因としては次の点が考えられます。

- 1 他の移住地（特に対岸のアルト・パラナ）に比べて多くの所要資金が必要だということが未だに考えられていること。
- 2 健康診断特にトシコマの検査が非常に厳重であること。
- 3 家族構成の制限が他の国に比べて厳格だった。
- 4 入国手続が他の国に比べてやつかいで、その上乗給までに可成の日数を要したこと。

しかし最近になつて前記の1・3及び4項の問題は随分改善せられ、現在では他の国とあまり大差はなくなつてきました。

まず資金面については以前は渡航前に最低額四十三万五千円という資金が必要でした。この額はお隣りのパラグアイの移住地に入植するための資金よりもはるかに多額でありましたので、それならパラグアイの方へ行つた方が有利だということで、このアルゼンチンの移住地の方はおろそかになつてしまつたというのが実情でした。

しかし、この辺の事情は最近一変しました。あとでも説明しますが渡航前に必要な最低額は二十四万円でいいことになつたのです。この額はお隣りのパラグアイのアルト・パラナ移住地の場合と同額ですから最早その点では全く優劣はなくなつてしまつたのです。

つぎに入国手続のことですが、最近アルゼンチン政府は日本人を積極的に導入しようという方針から、従来の一州に対する日本人入国制限数八〇家族の枠を撤廃し、また家族構成は夫婦と子供だけであつたのを、その夫婦の親

や兄弟も一諸に行けるように改善されました。それから入国手続は従前より相等簡素化され従つて移住手続を行つてから渡航までに要する期間は概ね二ヶ月位となりました。

最後に健康診断についても以前はみんな横浜か神戸へ出て来て在日アルゼンチン大使館の指定するお医者さんの診断を受けなければならなかつたのですが、現在では地元の日赤病院で診断を受ければよいことになりました。

このように日本の移住者にとつては次第に条件が好転して参りましたのでこれからは恐らくこのガルアペー移住地へ入植を希望される方が続出してくると思いますし、八十家族満植の日もそう遠いことではないと思います。そして、やがてこの移住地も輝やかしい脚光をあびることだと思います。いなすでにそのきさしが見えているのです。

營農のすすめ方について

農業移住者として移住地に入植する人にとつて、やはりなんといつても一番の関心事は、「どういう具合に營農をすすめていつたらよいか」ということだと思ひます。そこでこのことについて若干説明してみましよう。

ただし、この營農のすすめ方は移住者の家族構成、資金、入植時期等によつても異なりますし、市場の状況の変化によつても變つてきますので一概に申上げるわけにもいきませんが、一応、次の前提条件にたつて標準營農類型の概要を示すことにましよう。

まず、その前提条件といふのは、配分面積Ⅱ三十町歩、家族構成Ⅱ五人（その稼働率二・五人）、入植時期Ⅱ六月末……ということですが、

さて、移住者が移住地に入植すれば当然開墾から始めなければなりません。この開墾は現地の人を雇つて原始林を伐開しこれに火をつけて山焼きしたあとを整地するのですが、大体、初年度は五町歩、第二年度が三町歩、第

開墾の仕方

栽培作物

三年目以降は毎年二〜三町步つづ開墾していつて十年目には三十町步全部の開墾を終るといふのが、標準の開墾方式です。

それでは次にどんな作物を栽培するのかと云えば、まず初年度から植えつける一年生作物（又は換金作物）としては陸稲、大豆、トモロコシ、マンジョウカ、煙草などであり、第二年目あたりから植えつけていく永年性作物としては柑橘、ブドウ、紅茶、油桐などです。

区 分	土地利用計画	
	1年目	完成時 (11年目)
草	1.5ha	} 4.0 5.0 2.0 5.0 3.0
稲	1.0	
豆	1.0	
シカ	1.0	
橘	5.0	
ウ桐		10.0
モ		1.0
コ		
ロ		
シ		
カ		
茶		
(紅)		
茶)		
カ		
松		
の		
他		
地	25.0	
計	30.0	30.0

みなさん、ひとつ上の表で「入植第一年目および完成時（十一年目）の土地利用計画」と「完成安定時の永年作の収益」をじっくり見てください。

この永年作の収益の方を見ますと、第十一年目からは年間二八万ペソ、邦価に換算して百二十三万

完成安定期の永年作の収益

区分	作付面積	ha当収量	総収量	単価	金額
柑 橘	5 ha	120,000個	600,000個	0.2 ペソ	120,000 #
ブドウ	2 #	10,000kg	20,000kg	3.5 #	70,000 #
茶(紅茶)	3 #	2,500kg 生葉	7,500kg	4.0 #	30,000 #
油 桐	5 #	6,000kg カラ付き	30,000kg	2.0 #	60,000 #
計					280,000

1ドル=82ペソ

1ペソ=約4円40銭

田の収益があがることが分ります。もちろん、この他にも短期作物や養豚による収入がありますが、これも加えますと総収入は三、六万八千ペソとなり、経営費が六万五千ペソにかつたとしても、年間差引二万三千ペソ、邦価に換算して百万円以上の農業所得を安定的に確保することが出来るというわけです。さらに、植林としてユーカーリ樹五町歩（伐期五、七、七、年）、パラナ松五町歩（伐期十二年）からも相当の収入得られ、年平均約五十万円の粗収入を見込むことが出来、経営費を差引くと、十

方門の純益がありますから、さきほどの百方門にこれも加えれば実に百三十方門の利益をあげることができるというわけです。原木の販売は移住地の近くにバルブ工場がありますから心配いりません。こうして移住者の方々は十年たつてからの移住地の繁栄を夢みながら懸命に汗水たらして働かれるわけですがこのガルアペー移住地の前途は非常に明るいものがありますから、皆さん安心して力一杯働くことが出来ると思います。

どんな人が移住できるか

さて、以上のような説明を讀んで「よし！それでは俺もひとつガルアペー移住地へ行つて大いに頑張つてみよう。」という氣になられたとして、それでは誰でもそこを猫も杓子も移住できるのかというと必ずしもそうではありません。

健全な精神
健全な身体

アルゼンチン側にしても優秀な日本人、つまり健全な身体と健全な精神の

条 件

持主で、特に開拓意欲の旺盛な人に来てほしいと望んでいるのですから、体の弱い人とか意志の弱い人、また素行の悪い人などは移住不適格者です。その他、移住者となるには次のような資格が必要ですから覚えておいて下さい。

- (1) 農業者であること。(過大に農業経験がある場合も考慮されることがある)
- (2) 労働意欲が旺盛であること。
- (3) 世帯は夫婦を基幹とした自然家族で構成され人員は七人以内のものであること。なお、稼働力は豊富な世帯が望ましいが、夫婦のみでも農業経験および資金の豊富なものについては考慮される。
- (4) 世帯員はすべて身体強健であること。(トラコームについては特に検査が嚴重であり、完全に治癒していても痕跡があるものは絶対に不可である)
- (5) 思想堅実で極右極左の思想信奉者でないこと。

(6) アルゼンチン国に永住の目的で渡航すること。

(7) 二十四万円の資金が用意できること。(内訳は土地代頭金十萬円、約

年分の生活資金十九萬円、家屋建設資金一萬円、それにブエノス・

アイレスからポサータグス経山現地までの荷物運賃一萬円)

なお、手持資金の少ない方は現地到着後、必要な営農資金、太農機具購入資金、農畜舎建設資金等は現地の移住振興会社支店より融資を受けることもできます。

また、こまかいこともありますが、一応以上の条件に照しあわせてみて果して自分、あるいは自分の家族は移住適格であるかどうかを判断して頂いたらいよいよと思います。

移住者に対する援助

海外移住はなんといつてもわが国に於ける大切な国策の一つです。そこで、海外に移住される方々に対しては国からいろいろな援助が与えられてい

渡航費
支度金

ます。例えば、海外へ行くための渡航費——つまり船賃——は全額を貸付け
てもらえますし(注1)、その上、昭和三十五年度からは支度金まで支給され
るようになります(注2)。また、出発前のいく日かは横派または神戸にあ
る移住あつ庵所に宿泊して準備方端ととのえることが出来ます。そして、出
発してからも、船の中ではそれこそ至れり尽せりのサービスを受け、なか
か快適な航海を楽しむことができますし、目的地へ着いてからは外務省の在
外公館や当会の支部の職員等が直接種々御面倒をみることになっています。

移住振興
会社

また、日本海外移住振興株式会社という同業会社があつて、移住したく
ても資金に悩んでおられる方々や現地で独立するためには資金を必要とする方々
のために融資の道も構せられています。

ですから、海外へ移住されるにしても頑固な身体と旺盛な開拓者精神さえ
持ちあわせておられるならば別段なんの心配もいらなわけです。

(注1) 渡航費の貸付

移住者の渡航費はその金額が政府の委託をうけている日本海外協会連合会を通じて貸付けられる。その金額はリントス港まで満十二才以上が一人十萬二千円、満三才から十二才未満までが半額の五萬一千円、満三才から三才未満までは四分の一の二萬五千五百円、一才未満は無料。返済は十年割置の十カ年均等年賦償還で年利三分六厘五毛。但し、割置期間中は無利子、結局二十年間で返済することになる。

(注2) 支 度 金

昭和三六年四月一日以降、合格した渡航費貸付移住者に対し次のように支度費が支給される。

これは渡航費を貸付けてもらえる移住者なら誰でも資格があり、満十二才以上の移住者一名に対して七、〇〇〇円、満三才以上十二才未満の移住者一名に対して三、五〇〇円、満三才未満の移住者一名に対して一、七五〇円がそれぞれ支給される。

申込から出帆まで

最後に移住手續について説明しましょう。

海外協会

海外移住の窓口は海外協会がこれにあたつています。そこで海外へ移住を希望する人は先ず各都道府県庁内にある海外協会（但し、埼玉県海外協会は浦和市高砂町四自治会館内、大阪府海外協会は大阪市東区法円寺町農林会館内、熊本県海外協会は熊本市長安寺町二二、長崎県海外移住協会は長崎市樽島町三五）へ行つて御相談になるのが一番よいのですが、県庁の所在地まで行かれるのが遠くて大変だという人は市町村役場や農協事務所にて御相談になつても結構です。

そして、いよいよ決心がついたら所定の書類——移住申込書、戸籍謄本、健康診断書、農業従事証明書等——をえて地方の海外協会へ申込みばよいのです。提出された書類は地方の海外協会や中央の日本海外協会連合会で審

査され合格、不合格が決定されます。

合格が決定すると、その後は海外移住に必要な講習を受けたり、財産整理をしたり、渡航に必要な諸手続きをしたりして多忙な日を送らなければなりません。出帆の日の約一週間前には横浜か神戸にある移住あつ旋房に入つて最後の出発準備をととのえるということになります。

必要経費

ところで、移住を決意してから渡航前後までに一体どの位の費用がかかるのでしょうか。もちろん、家族数の多いと少いで違いますし、また例えは携行荷物の買い方などによつても違いますから一概にはいえませんが、まあ大体五人家族で十五才以上が三人程度で行く場合なら申込みの段階から出港までの諸経費が五万円位、船中雑費として二万円、計六万円も準備すればよいでしょう。

しかし、この程度の費用はさきほど説明しました国から支給される支度金や県からの餉別金などでほぼまかなえると思いますから、実際の自己負担の費用は極く僅少ですむと思います。

さて、以上で大体の説明を終ることになります。勤勉で開拓者精神旺盛な方の奮起を望んでやみません。

現地からの報告

以上の説明で大體、現地の事情等についてお分りになつた事と思いますが、ついで最近十昭和三十六年十月一現地から、ガルアペー移住地の近況について生の声を歌込んだテープを送つてきましたので、これを要約して次に掲載することにしよう。今までの説明と多少重複するところがあるかも知れませんが、これはこれでお読みになつて下さい。

☆

☆

☆

先ず第一にガルアペー移住地について語る場合には、入植者が経済的な面であつて、いつているかどうかが問題になると思う。

現在、ガルアペー移住地は第二回の人が入植して二年と三カ月になる。大部分の移住者の方は満三年前後となり、開拓で六えば一番苦しい時期である。

ところが、現在までに全部で二十六戸の移住者のうち、二戸は入植当時、移住振興会から貸付を受けた個人融資を全額償還している。その方の普農計画からして、借

入金を返済して充分経営の見通しが立つたということであつた。

換金作物としては煙草は重要な作物となつてゐる。煙草を乾燥するための乾燥場の建設資金として、九戸の入植者が短期の融資を振興会社から受けたが、これも期限内に償還した。

この二つの実例は、ガルアペー移住地がよくいつてゐるという経済的裏付けになると思う。

入植二年目で母国送金十万円

この他にもこうしたトピックのような話はいくつかあるが、そのうちでも、釜煙草の収穫をあげられた高知県の村土さんの場合であると、約七屯の煙草の収穫を家族だけであげて、十四万ペソ近い収入をあげている。日本の金に換算しては約六十万円近い収入を換金作物によつて得たわけである。

この方は最近日本に十万円の送金をした。入植二年目の人が母国に送金するといふことは非常に珍らしいケースである。入植二年目と云つと資金がいくらあつても足りないときである。この時期に日本に送金出来るといふことは、村土さんがガルアペー

の菅農について、充分自信をもつて将来の明るい見透しを立てた一つの例証であるとも云える。

この他にもたまたま島根県の海外協会の方が視察に来たときも広島県の移住者の方が、実はここに入植してから一度も郷里の母に小遣いを送つてないので隣りの県のよしみで雇けて欲しいと云つて百弗程托した事実がある。

これも菅農資金の一部を渡したものであると思うが、そうしたことが可能であるというところにガルアペー移住地のよいところがあると思う。

この方の場合も村上さんの場合同様に菅農の見透しについて自信を得たと考えてよいのではないかと思う。

その他にも、モーターのついた鋤が菅農の場合に便利であるが、非常に高価で日本金にして約十数万円位なものを機草の取扱後、購入したいという希望をされた家族は、今の方々のほかに二人もある。これは入植後、機械類に資金を投ずることは簡単なようで仲々むつかしいものであるが、それがこの機械を購入することは、将来その資金を回収出来るといふ自信をもつたからだと思う。決して携行資金を沢山もつて来てい

たというわけではなく、煙草の収穫で得た金を投じたものと思われる。こうしたことが次から次と出でくるとは私共としても非常にうれしいことであつて、これによつてガルアペー移住地における入植者達の自信のほどがうかがい得るであらう。

交通の便と永年作物にめぐる移住地

ガルアペー移住地のよいところは、その一つは非常に便利だということである。収容所のすぐ前を通つているボサードからイグアスの滝まで国道十二号線が走つているが、この国道十二号線の前をトラック、その他の車がどんどん通つている。バスだけでもボサードに出るバスは一日七往復、プエルトリコまで二往復、計九往復通つている。収容所からバス停留所まで、二、三十米であるからこんな便利な植住地は日本内地の開拓の場合でもそうザラにあるものではない。

ある北海道の入植者の方がやつて来て、「実はもつと不便なところと思つていたが余り交通が頻繁なので、うるさくて夜寝られない」とこぼしている人がいた位だ。こういうことも見方によつてはせいたくなくな積みであると思ふ。

その国道十三号線よりロッテによつては可成り奥に入つたところもあるが、十三号線に出ることは簡單であつて、そこからバスに乗ればフェルトリコ、ボサードスに出られるといふことはこの移住地の特徴であつて、交通が非常に便利であるといふことは、生産物の販売の場合に有利な条件であるといふことである。

第二に有利な点は永年作物の問題である。現在この移住地で主として植えてゐる永年作物は、今の段階ではオレンジと楢林である。大部分の方はこの大きな作物のグループに分けることが出来る。

そのほかに将来殖えていくと予想されるものは油桐、紅茶である。特に楢林をやつてゐる人は紅茶の方に力を入れるし、オレンジをやつてゐる人は油桐の方にいくのではないかと思ふ。

その他に早く入つた人はマテ茶を作付けてゐる。

その何れにしても収支はハッキリした見越しをもつものであつて、當農の上に心配をもつものでない。従つてガルアベトの入植者の入達は、どれが一番金になるか、自分の携行資金から見て、また自分の稼働力や、自分の土地の条件から見て、どの作物

を選ぶべきかを考えて選んでいる。

ともかく、これらの作物のいずれもが今から二十年、あるいはそれ以前に入植した日本人の先輩移住者で立派にやつている例があるのだから心強い。

たとえば油桐、マテ茶の場合だとハーゲンアメリカの在住の方は立派な農園をもち、現在立派な煉瓦葺りの家屋に住み、自動車をもち、我々の移住地を訪問されるといつた生活をしている。

また、ナランハ（オレンヂャ）の場合だと、すぐ近くにあるバラシイノという会社の土地の一部に入っている坂田さんが立派なナランハ園を經營している。紅茶園だと、オペラにいられる堀山さん等々いくらでも、実際その作物を大規模に經營し立派に成功している先輩移住者の例があることは実に心強いことである。

こういうハツキリした基礎をもつ永年作物がいくつもあるということは、ガルアペー移住地の大変な強味である。またこれらの作物は売ることに頭を悩ますことはない。

例えば紅茶の場合でもガルアペー移住地から四〇キロ離れたモンテカルロにオランダ系のお茶の工場があつて、年間千町歩近い茶園からの製茶を処理する能力があり、

工場の附近に六百町歩の茶園しかないために、約百キロ離れたところまでお茶を買いに出かけている状態である。

その工場の人と話をしたがガルーアペーで作れば喜んで買ってくれるということで、今の植込でいくと、一町歩当り二万五千ペソ位、邦貨にして十万円を超える収入をあげ得るであろう。これは決して無理なことではない。日本に比較すれば単位当りの収益は少ないが、栽培が極めて粗放で、且つ経営規模が大きいので総収益は日本より遙かに多い。お茶については、こういうわけであるがそれ以外についても同様である。どれを植えれば一番よいかということで皆が頭をいためている段階であつて、どれを植えなければやつてゆけないという問題ではない。

煙草は有利な短期作物

それから短期作物の問題であるがガルーアペーには煙草という決め手があることが実に有利な点である。実は昨年、の煙草の作付けはガルーアペーの移住地だけで四十町歩近くあつたが四十屯の収穫をあげた。この四十屯の煙草は約八十万ペソに売れた。日本金にして、三百五十万円から四百万円近い収入をあげた。四百万円といえば、さほど

大きなものでないと思ふかも知れないが煙草の作付けをした家族は約三十家族ほどだから、一家族平均約二十万円近い収入があつたと見るべきで、二十万円あれば現在の入植者は充分食べてゆけるだけでなく、半分近い金を翌年度の営農資金に廻すことが出来る。

現在一戸当り二町歩位の煙草を作りながら永年作物を作ることはそうむづかしいことではなく、やらなければならぬことでもある。昨年などの例を見ても平均してそのようにやつているので我々として心強く思つている。

この煙草という換金作物をもつてゐることはガルアペーにとつて非常に有利な条件である。

これを基礎にして永年作物の現金収入の道をつけることが出来る。その他に考へている換金作物に薄荷がある。これも非常によい値段がでているが、このガルアペー移住地の作物としては不適なものではないが、安定性という点で煙草にはかなわない点もあるので研究中である。

その他にも豆とか、ドウモロコシなどあり、大夫が買いに来て思わぬ収入をあげて

いる。あるは鳥取の移住者のところに行つたとき入夫が南京豆とマンショカを買いに
来ていたが、見ている間に、四、五十俵商売が出来ていた。このように毎日のように
あるのだと云つていたが、その面でも思わぬ現金収入の途があり、非常な自信をもつ
ているようだ。

皆農上、一番心強いことばしつかりした基礎のある永年作物のあること、ハッキリ
した換金作物のあることだと思ふ。この二つとも移住地にもつてゐる強味である。

煙草の栽培についても収買会社は作付けが終ると收穫見込み散の三割まで現金をポ
ンとおいてゆくといつた状態である。昨年始めてこの移住地で煙草で現金収入があつ
たわけであるが、作付けた移住者は煙草の会社が前渡金を支払つてくれたので皆意外
に感じた次第である。

今年はある程度前渡金を当てにしているようである。

その他に煙草の乾燥に使用する針金とか、薬品の現物の貸付けも煙草の会社がやつ
ている。一方煙草の買上げ値段は一種の統制でどこの会社でも同じ値段で買上げてく
れるので、たたかれる心配はなく同じ値段で売れるという有利な面がある。

出荷は原則として庭先き渡しであつて、移住地から運んでゆくと会社迄の運賃は別に会社が支払つてくれる。

こういうわけで移住者は煙草の販売以外の利益をあげるといふことも可能である。煙草以外の永年作も同様であつて、殆んど庭先きで売れるといふことはガルアペー移住地にとつて心強いことである。

移住地における教育と診療所について

この問題は、移住地の中に海協連が日本政府の補助金をもらつて建てた診療所がある。その診療所は現在州政府が運営しているが、一週に二回程、アルゼンチンの医者が来て診療に當つている。そのほか看護婦が一人常駐している。ここで受ける診療は一切無料である。その他に診療所に備えてある薬は無料である。これは非常に有利なことである。随分面白い話がある。

このお医者さんの紹介でフェルトリコあるいはボサーダスの病院に入院した人は獲人もあり、これらの人はいづれも無料でやつてもらつてゐるが、人間はおかしなもので無料であると慣れ出来ないので、高いお金を払つてお医者に診てもらふ方もある。

ようだ。アルゼンチンではどの病院でも国立、国営の病院で無料診療であるが、同じ
医者が見ても無料よりも有料の方が有難味があるという現象もおきているようだ。

この移住地では、風土病その他の心配は一切ないと云つて差支えない。今迄、病院
に診療を受ける方で一番多いのはお産であるが、これは病氣とは云えず、この他、ジ
ンマシンであるとか外傷であり、その次が過労である。これは各自が注意すればな
い心配はないことであつて病氣に数えるべきではない。

次に学校である。ガルアペー移住地に一つの小学校がある。

これも診療所同様、海協連が日本政府の補助金で建てたものである。

現在三名アルゼンチン人の女の先生がいて教えている。一つ第二小学校を移住地内
にアルゼンチン側の金で建設する計画をもつていて、こんどの入植者が入られる
頃には出来上つているかも知れない。

小学校の授業は全部スペイン語で行つてゐる。現在生徒数は約百名である。この学
校は収容所の近くの国道そばにあつてアルゼンチンに珍らしい引窓で、日本の田舎の
学校のような感じである。通学には乗馬や徒歩でかよつてゐる。家が遠いので通学に

稍不便であるという感があるが、それは入植者は三十町歩の地主となるためにどうしても隣りの間が遠くなるというわけで、ある意味では止むを得ない現象である。

中学校はプエルトリコにある。今のところ小学校のスペイン語の授業を逃すかけるのに一生懸命である。中学校は三年生であるからだいぶひまがかかるようである。

これも経費はかからない。アルゼンチン国の経費で先生の俸給も支払うし、日本PTAのようなコウペラドワターという組織が出来ていて、その父兄の方が中心となつているが日本のPTAと比較して殆んど問題にならぬ位の少額である。

將來有望な移住地

先月私はガルアペー移住地を訪ねたとき五月の船で来た北海道の梅崎さんを訪ねた。梅崎さんは、大体アルゼンチンの移住地の中でもメンドサの移住地に行く予定であつたが、メンドサ移住地が仲々始まらないのでガルアペーに来ることに決めたのであるが、ここに来るまで不安でしようがなかつたが私が訪ねたらこんなよい移住地はないと喜んでいられた。実はボサードグスからトックで移住地に入つてくるにつれて気分がよくなつてきたと云つていたが、すつかりガルアペーワアンになつてしまつ

た。梅崎さんはどうして後から移住者が入つて来ないのだろうか。どうしてこの移住地には入植者が少ないのかと首をかしげていた。

これは一つの例であつて全部を押し測ることは出来ぬが最近来られた四家族の方も全部、安心して営農をやつている。以上大体ガリアー移住地の概況を説明した。

品名	原産地	品番	数量	単位	内価	備考
硝酸肥料	日本	100	1	kg	100	
硫酸肥料	日本	200	1	kg	200	
リン酸肥料	日本	300	1	kg	300	
複合肥料	日本	400	1	kg	400	
有機肥料	日本	500	1	kg	500	
農薬	日本	600	1	kg	600	
肥料	日本	700	1	kg	700	
肥料	日本	800	1	kg	800	
肥料	日本	900	1	kg	900	
肥料	日本	1000	1	kg	1000	
肥料	日本	1100	1	kg	1100	
肥料	日本	1200	1	kg	1200	
肥料	日本	1300	1	kg	1300	
肥料	日本	1400	1	kg	1400	
肥料	日本	1500	1	kg	1500	
肥料	日本	1600	1	kg	1600	
肥料	日本	1700	1	kg	1700	
肥料	日本	1800	1	kg	1800	
肥料	日本	1900	1	kg	1900	
肥料	日本	2000	1	kg	2000	

(注1) 原産地の符号の説明
 A 購入しても搬入すべきもの。
 B 現地在場であれば、搬入した方がよいもの。
 C 搬入する必要のないもの。
 D 全世界毎には搬入持参の必要はないが、共同で搬入すればよいと思われるもの。

(注2) 現地購入額の特記
 イ 現地で搬入可能だが、日本に比べ原価が安い。
 ロ 日本と余り変わらない。
 ハ 現地で搬入可能で日本より安い。
 ニ 現地在場でなければ搬入しない。
 ホ 現地で搬入が難しい。

(注3) 特記事項
 本品の大量購入時は、現地在場の複数額の原価をされるので、なるべく中古品を搬入すること(3ヶ月以上使用のものは無税)、日用品、作業用衣類は新品と見なされない程度であれば、課税されない。

アムステルダム物価表 (1961年1月1日現在)

1. 食糧品

品名	単位	価	格	備	考
バ	1kg	12.50	54		
米	"	19	82		
小麦	"	3	34		
粉	1kg	50~60	215~258		オリーブ油、花生油等の 配合
紅茶	1kg	17	73		
牛乳	1kg	125~140	540~600		
鶏卵	1kg	6.50~7.40	28~32		
バター	1kg	30~34	129~146		
チーズ	200g	18	77		
肉	1kg	60~100	258~430		
豚肉	"	50~60	215~258		普通品
牛肉	"	80	344		ロース
ソーシ	"	45~60	194~258		
ソーシ	"	15~18	65~77		
ソーシ	"	25~30	107~129		
ソーシ	"	3~4	13~17		
ソーシ	"	4~5	17~22		
ソーシ	"	20~30	86~130		
ソーシ	"	17~25	73~107		
ソーシ	1kg	18~25	77~107		普通品

2. 衣類

品名	単位	価	格	備	考
ワイシャツ	1枚	450~600	1,980~2,580		半級品
ズボン	"	1,100~1,200	4,730~5,160		日本製タイプ
下着	"	700~800	3,010~3,440		
下着	"	60~150	260~650		木綿下、半級冬物
下着	1足	75~110	320~470		
洋装	1着	140~250	600~1,080		半級品中級夏物
洋装	"	3,500以上	15,000以上		" 冬物
洋装	"	4,000以上	17,200以上		
ハンカチ	1枚	25~40	100~170		半級品
タオル	"	35~50	150~220		"
タオル	"	80~100	340~430		"
タオル	"	150~200	550~850		"

3. その他

品名	単位	価	格	備	考
タバコ	1個	1.5	4		45本入(無税)
タバコ	"	12	6		90本入(無税)
タバコ	"	18	77		洗剤用
タバコ	1本	4.5~17	19~78		
タバコ	1箱	30~38	129~163		100枚巻(並)
タバコ	1箱	10~20	43~86		20本入
タバコ	1箱	6	26		公定価
タバコ	1箱	4	17		"
タバコ	1足	500~1,100	2,150~4,730		男子用
タバコ	1箱	500位	860		半級食料なし
タバコ	1箱	2,500~4,500	11,000~20,000		食料付
タバコ	1箱	25	110		2等級巻を認るだけ
タバコ	1箱	5,000~8,000	21,500~32,400		特内1等
タバコ	1箱	10,000	21,500~43,000		特外2等

(注) 1. 本表は1961年1月1日現在の価格表であるが、最近やや物価上昇の傾向にある。

2. 換算は1ドル=82~83ペソ、邦価換算1ペソ4円80銭として計算した。

移住案内 (ガルアペー篇)

1961年11月20日

発行所 関 日本海外協会連合会
東京都中央区京町2の6

印刷者 森 山 忠 吾

印刷所 東京製本印刷株式会社
東京都港区芝浦佐久間町2の9